



## 平成29年度における高病原性鳥インフルエンザの発生に係る 疫学調査チーム検討会(第1回)の概要

農林水産省では、本年1月に香川県内で確認された高病原性鳥インフルエンザの発生事例について、疫学調査を踏まえた検討を行い、今後の防疫対策に資するため、2月14日に「平成29年度における高病原性鳥インフルエンザの発生に係る疫学調査チーム検討会(第1回)」を開催し、その概要を公表いたしました。概要は以下のとおりです。昨年、3月下旬に本病の発生が確認されたように、渡り鳥は越冬を終えて営巣地に向かう途中にも各所に立ち寄ることが知られていることから、引き続き厳重な警戒をお願いします。

### <疫学調査チーム検討会概要>

平成30年1月に香川県で確認された高病原性鳥インフルエンザ(H5N6亜型)の発生事例について、発生確認直後に実施した現地調査、遺伝子解析や感染試験による分離ウイルスの性状分析等を踏まえ、疫学的検討を行った。

現地調査結果として、発生鶏舎は野鳥が飛来するため池に隣接していることなどが報告されるとともに、感染試験の中間結果として、感染鶏から排せつされるウイルス量が少ない可能性などが示された。

引き続き、感染試験による分離ウイルスの性状分析等を実施し、その結果を踏まえ、感染経路の究明や今後の検査体制等の検討のため、次回検討会を開催することとされた。

### 1. 現地調査等の概要

発生農場の敷地のほぼ中央に、カモ類等の野鳥が飛来するため池があり、現地調査の際も水鳥が複数羽確認された。発生鶏舎はこのため池に最も近い場所に位置していた。

当該農場では、鶏舎の壁の破損部分を補修するなどの野生動物の侵入防止対策が講じられていた。また、従業員が鶏舎に入る際には専用の長靴に履き替えるなどの衛生管理対策が実施されていたことが、管理人への聴取りにより確認された。ただし、現地調査時、発生鶏舎内にネズミのものと思われる小動物の糞が確認された。

## 【発生農場見取図】



### 2. 疫学調査のための環境材料等の採取と検査結果

疫学調査のため、当該農場の発生鶏舎以外の鶏舎の飼養鶏の気管スワブ及びクローカスワブ並びに血液、発生鶏舎内の鶏糞が混じった敷料、発生鶏舎近くのため池の水、ため池の近くで確認された野鳥の糞等の計240検体を採材し、鳥取大学においてウイルス検査や抗体検査を実施したが、全て陰性であった。

また、香川県の家畜保健衛生所が、発生鶏舎の飼養鶏10羽について抗体検査を実施したが、全て陰性であった。

### 3. 分離ウイルスの特徴

分離されたH5N6亜型ウイルスは、遺伝子解析の結果から、昨年度(平成28年度)の冬に欧州で流行したH5N8亜型ウイルスと、ユーラシア大陸の野鳥で循環しているN6亜型(HA亜型は不明)ウイルスが再集合したウイルスであると考えられた(農研機構動物衛生研究部門が本年1月に発表済み)。



昨年11月に島根県で発見された死亡野鳥から検出されたウイルスと本年1月に東京都で発見された死亡野鳥から検出されたウイルスは相同性が極めて高かったが、香川県で検出された今般のウイルスは、これらウイルスとは明確に区別された。

感染試験の中間結果から、本ウイルスの感染が成立すると（鶏が感染すると）、昨年度までに検出された高病原性鳥インフルエンザウイルスと同様に、鶏に対し高い致死性を示すものの、感染の成立には比較的多くのウイルス量が必要である可能性、感染鶏から排せつされるウイルス量が比較的少ない可能性が示唆された。

## 4. ウイルスの侵入時期及び経路

### (1) 国内への侵入経路・時期

渡り鳥などの野鳥による国内への具体的な侵入経路・時期については、今後、今シーズンの渡り鳥の渡りの動向、海外で検出されているウイルスの情報等を収集・分析し、究明を進めていくこととされた。

### (2) 鶏舎への侵入時期・経路

発生鶏舎において死亡羽数の増加が確認されたものの、家畜保健衛生所への届出後に更なる死亡羽数の急増が確認されなかったこと、発生鶏舎の生存鶏及び敷料等の環境材料からウイルスが分離されなかったこと、発生鶏舎の飼養鶏から抗体が検出されなかったこと等が現時点で確認されている。このためウイルスの鶏舎への侵入時期については、現在実施中の感染試験の結果等を踏まえ、検討を進めていくこととされた。

鶏舎への侵入経路については、現時点では不明であるが、発生鶏舎は、野鳥が飛来するため池に最も近い場所にあることから、ウイルスが鶏舎周辺に存在し、人、野生動物等何らかの形でウイルスが鶏舎内に侵入した可能性が考えられた。



## 5. その他

### (1) 検査について

1月10日に香川県の家畜保健衛生所で実施した遺伝子検査に用いた検体について、農研機構動物衛生研究部門においても遺伝子検査を実施したところ、家畜保健衛生所の検査で得られた結果と矛盾しない結果が確認された。

これまでに確認されているウイルスの性状を踏まえると、農林水産省が本年1月15日に通知した検査体制の強化（簡易検査に使用する検体数の増加、確実な採材、経過観察）は、当面の間、引き続き実施していくことが適当とされた。また、今後の検査体制については、現在実施中の感染試験の結果等を踏まえ、検討を進めていくこととされた。

### (2) 発生予防対策について

昨年度においても、3月下旬に本病の発生が確認されたように、カモ類などの渡り鳥は、越冬のために日本に飛来した後も国内を移動し、また、越冬を終えて営巣地に向かう途中にも国内の各所に立ち寄ることが知られていることから、厳重な警戒を継続する必要があるとされた。

香川県の事例も、発生鶏舎の近くに池があったことから、周辺に池等の水辺がある農場においては、家きん舎周辺にウイルスが存在するかもしれないという意識を持って、厳格な衛生管理を講じていくことが必要とされた。

感染試験の中間結果から、死亡羽数の増加は引き続き主な臨床所見であることから、毎日の健康観察による早期発見・早期通報が重要とされた。

<農林水産省 鳥インフルエンザに関する情報>

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html>

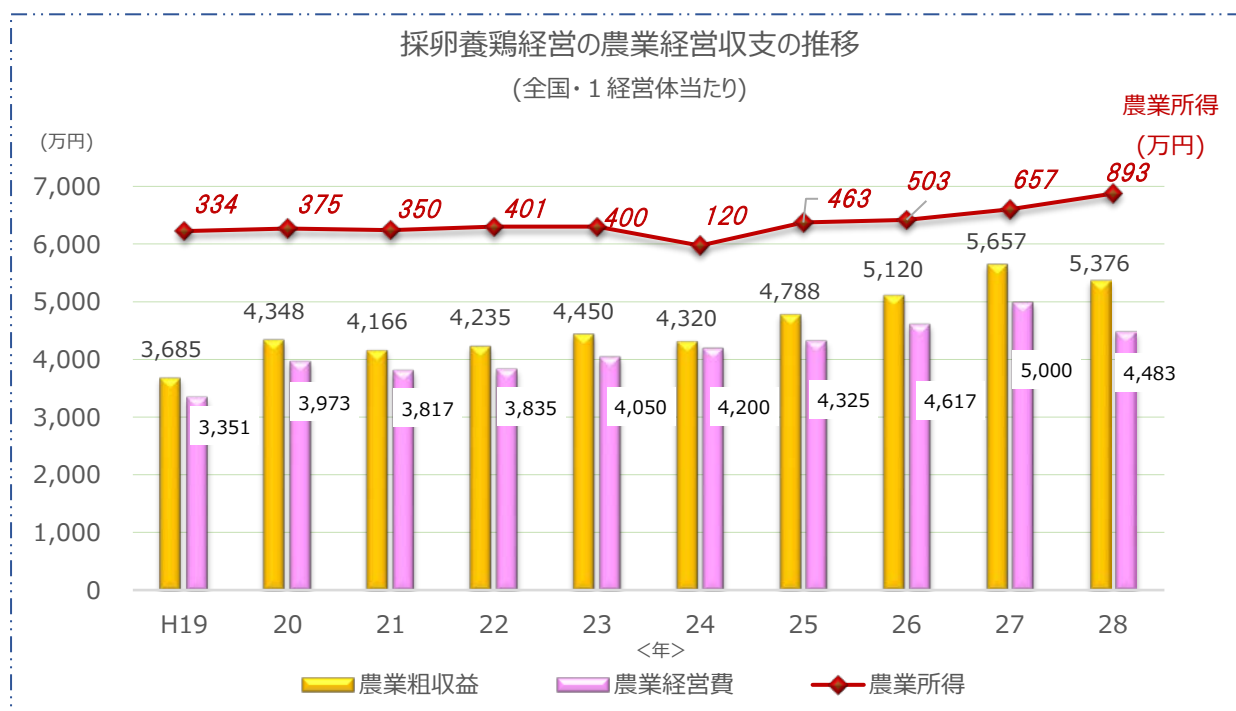




## 採卵養鶏経営の農業経営収支

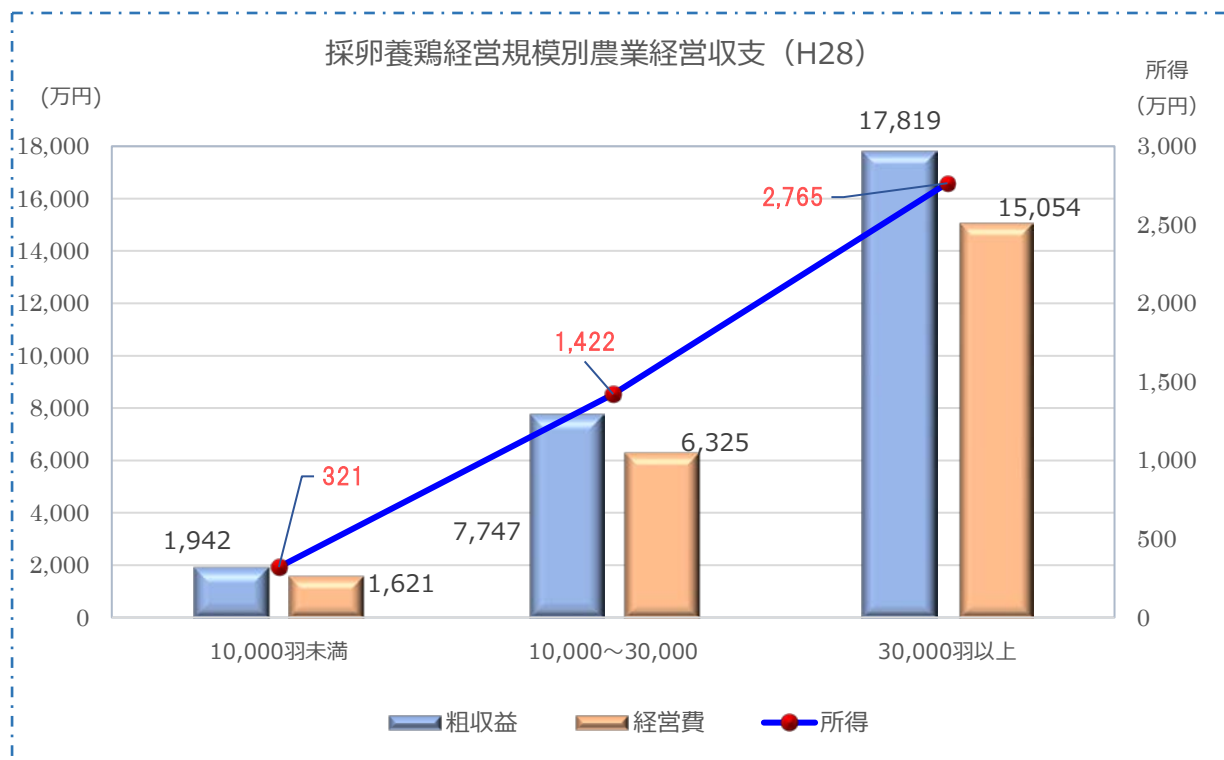
平成29年12月21日に農林水産省より公表された「平成28年個別経営の営農類型別経営統計」により、採卵養鶏経営（47経営体を集計）の農業経営収支について、その概要を紹介します。

平成28年における採卵養鶏経営（全国平均）における1経営体当たりの農業粗収益は、鶏卵相場が全国的に前年を下回って推移したことなどから、5,376万円（前年比5.0%減）と前年をやや下回りました。一方、農業経営費は、約6割を占める飼料費の減少などから4,483万円と、前年に比べ10.3%の減となりました。この結果、農業所得は893万円と、前年に比べ36.1%増と大幅な増加となりました。4年連続で前年を上回って推移しています。





なお、平成28年の飼養羽数規模別の所得をみると、1万羽未満では321万円、1～3万羽では1,422万円、3万羽以上では2,765万円となっています。



## 「畜産クラスター」機械導入事業（リース事業）の 対象機械装置に「除ふんベルト等」が追加！

中央畜産会が事業実施主体となって実施している「畜産クラスター事業」について、「除ふんベルト等」が追加されましたので、お知らせいたします。

本リース事業の補助対象機械には、従来から「除ふんベルト」が含まれておらず、事業機械を導入する際に不便をきたす生産者が多いとして全国鶏卵養鶏団体連合会（全鶏連）から農林水産省に対し、「除ふんベルト」の追加について要請が行われていました。

当協会としても、①「直立多段ケージ」の導入は、現在の養鶏業界において設備の合理性・生産性向上・収益拡大を促進するものであり、除ふんベルトはその重要な機能の一部分であること、②除ふんベルトの導入により、鶏舎内の環境調整能力が



向上し、結果として生産性の増大、飼料要求率の改善に寄与するとして、補助対象機械に「除ふんベルト」を追加するよう、農林水産省の担当課へ要請を行いました。

29補正予算が国会で成立後、農林水産省より、「事業の要綱・要領の一部改正の際、対象機械装置に「ふん尿除去機械装置（自走式を除く）」を追加し、除ふんベルト等も対象に含めることとした。」との回答がありました。

中央畜産会からの事業実施主体の公募は未定とのことですが、リース事業導入の計画を検討されてはいかがでしょうか。

## 《畜産クラスター（リース事業）対象機械装置一覧（抜粋）》

補助対象機械装置	
機械装置の区分	仕様等
飼料給与関係機械装置	自動給餌機、自走式給餌機、自動給水機、ミキサーフィーダー、ベールフィーダー、餌寄せロボット等
畜舎温度制御機械装置	換気装置、細霧装置、送風装置、冷房装置、暖房装置等
省エネ・電力安定供給のための機械装置	ヒートポンプ、インバーター制御装置、効率的生産の継続に資する機械装置、自家発電機、配電盤等
家畜飼養管理機械装置	発情発見機、分娩監視装置、 <u>その他個体装着型家畜管理装置</u> 、哺乳ロボット、自動家畜分別機械装置、ふ卵関係装置等
衛生管理高度化機械装置	畜舎洗浄・清掃ロボット、 <u>ふん尿除去機械装置（自走式を除く）</u> 、動力噴霧機、車両消毒装置、脱臭関係装置等
エコフィード調製・給与関係装置	<u>エコフィード調製装置</u> 、エコフィード給与装置、リキッドフィード給与装置、簡易飼料分析機器、エコフィード運搬車（特装しているものに限る）等



# 日鶏協ニュース

平成30年2月号  
一般社団法人 日本養鶏協会

知っていますか？ たまごの信頼と安心の証  
公正マーク付きたまごプレゼントキャンペーン実施中



鶏卵公正取引協議会(事務局:(一社)日本養鶏協会内)では、消費者のみなさまに安心して、たまごを選んでいただくための根拠となる、たまごの公正マークを推奨しており、その活動の一環として、公正マークへの理解を深め、安心・安全なたまご料理を楽しんでもらうために毎年2回公正マーク付きたまごの当たるプレゼントキャンペーンを実施しています。

画像クリックで該当ページが開きます

応募期間：2018年2月14日(水)～3月18日(日)

賞品：卵1ヶ月分(30個) 50名様

応募方法：応募フォームから、クイズの回答・住所・氏名などの必要事項を入力してご応募ください。

<鶏卵公正取引協議会 プレゼントキャンペーンページ>

<https://www.campaignjp.biz/keiran10/>



## 協会活動報告

[青字下線部クリックで、\(一社\)日本養鶏協会ホームページ内該当事業のページが開きます](#)

### 鶏卵生産者経営安定対策事業

① 価格差補填事業の事業参加者との契約数量(トン/月当たり)

平成26年度	160,792
平成27年度	161,936
平成28年度	164,846
平成29年度	162,353

② 2月の標準取引価格 184.74円/Kg

(補てん価格 2.034円)

平成29年度補填基準価格 187円/Kg

平成29年度安定基準価格 165円/Kg





## 統計データ

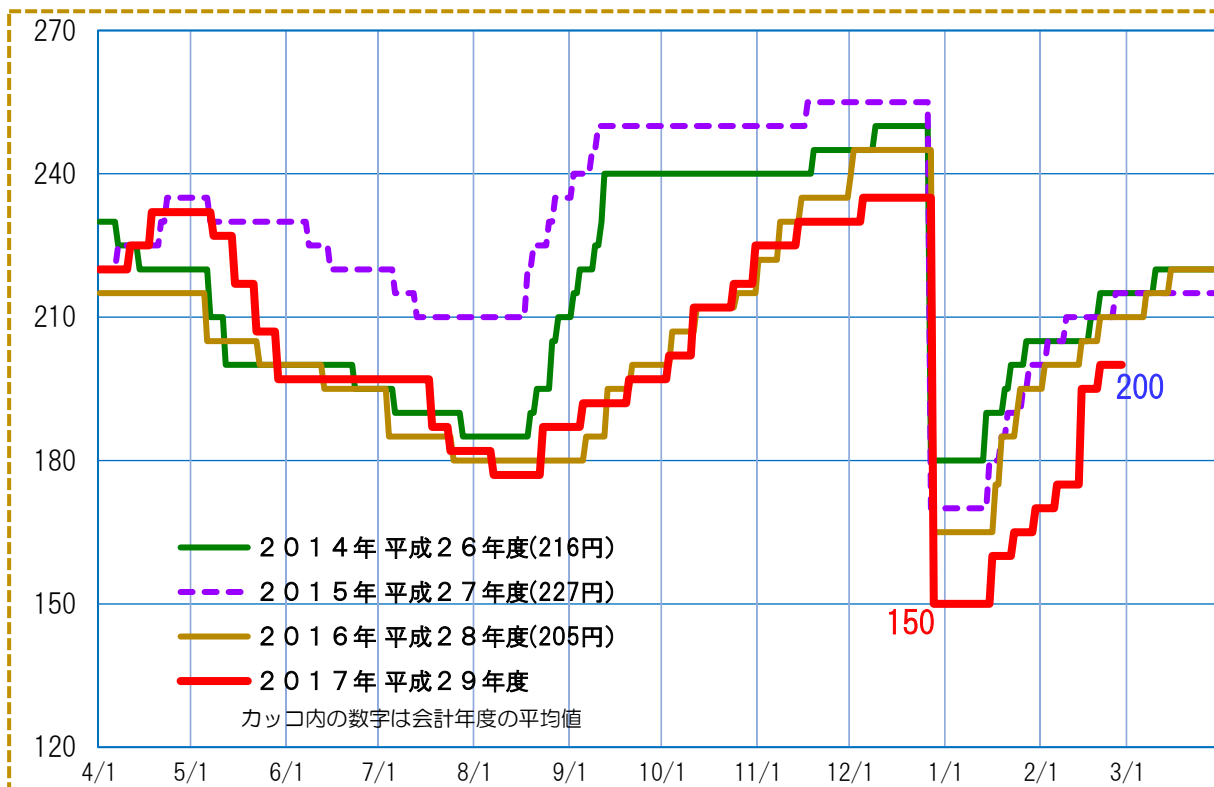
### 【相場動向】 過去10年間の1月相場<Mサイズ>

(単位:円/kg)

	平均値	高値	安値
平成21年	149	198	119
平成22年	151	203	119
平成23年	184	218	164
平成24年	149	203	114
平成25年	171	208	154
平成26年	224	258	204
平成27年	192	223	174
平成28年	182	218	164
平成29年	179	213	159
平成30年	159	188	144
平均値	174	213	152

平成30年1月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は、平均値159円、高値188円、安値144円と、いずれも過去10年間の平均値を下回る相場となりました。

### 【鶏卵相場推移 2014年～2017年 会計年度 東京全農Mサイズ 円/Kg】



鶏卵相場は2月に入り、170円からスタートし中旬から段階的に値を上げましたが、2月末の相場は昨年の210円を10円下回る200円と、昨年の11月中旬より過去4年で最も低い相場で推移しています。



## 【鶏卵関係主要計数】平成29年12月までの1年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	本年	前年
29年 1月	9,276	111.5%	457	101.9%	850	102.0%	179	182
2月	8,277	96.2%	450	95.8%	814	96.3%	204	209
3月	9,748	105.5%	513	103.1%	877	101.4%	217	215
4月	9,112	103.8%	468	95.9%	907	102.0%	227	215
5月	9,029	96.1%	497	106.6%	890	100.1%	216	204
6月	9,759	105.8%	474	102.1%	843	97.2%	197	197
7月	9,889	104.2%	455	103.2%	866	100.2%	191	184
8月	8,339	98.4%	466	102.3%	849	104.6%	182	180
9月	9,014	98.1%	566	103.9%	858	101.3%	194	192
10月	9,225	100.9%	487	104.2%	910	100.2%	211	211
11月	9,519	107.7%	494	102.9%	899	102.8%	228	231
12月	9,081	98.6%	536	102.1%	936	103.0%	234	245
1年間合計 平均(%)	110,268	102.2%	5,863	102.0%	10,499	100.9%	207 (平均)	205 (平均)

- ・雛餌付羽数は、前年同月比1.4%減となりましたが、年間では前年を2.2%上回って推移しています。
- ・配合飼料出荷量は、3か月ぶりに50万トンを上回り、年間でも前年同月比を2%上回って推移しています。
- ・鶏卵の家計消費量は、年間で最も多い936グラム（前年同月比3.0%増）となり、年間でも0.9%上回って推移しています。
- ・これらの統計からすると、供給サイドでの大きな落ち込みも無く、家計消費などの需要も堅調な展開となっています。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2018年3月1日

編集・発行責任者：小田上浩史(info@jpa.or.jp)

